

事業所名	児童デイサービスバンビ
------	-------------

公表日 令和7年3月10日

回収数 14人

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14人	0人	法令：1人あたり3㎡ 放デイ：38.58㎡+29.17㎡=67.75㎡ 22.58人分の広さ	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14人	0人	法令：10人に対して2人 放デイ：10人に対して3人～4人 ・送迎の職員も考慮し適切に配置されている。	送迎時の運転手に人員が取られる時間帯がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14人	0人	全体に向けて個人マーク（靴箱・ロッカー）、配車の可視化、エリア分けを行っており、個々に対しては、特性や育ちに応じたスケジューリング、ルーティンワークの活用、気付きを促すために注目しやすい設定など、時間や空間の構造化を行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14人	0人	日々整理整頓を心がけ、来所するお子さんの特性に合わせて危険な行動に繋がらないように配慮している。大きく体を動かす場合には、	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14人	0人	カームダウンエリアを設置して、1人になりたい、休憩したいお子さんは随時利用することができる。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14人	0人	環境整備は担当者を決めて行っており、支援については、月1回の外部講師による研修で支援会議を行う際に、今月の取り組みについての振り返りを行っている。また、日々の朝礼などで確認すべき点の打ち合わせや報告を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14人	0人	昨年のアンケートの結果から、事業所で行っていることを保護者向けに発信していくよう努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14人	0人	月々の社内研修（支援会議）やミーティングで意見を聞くことや、職員用の事業所評価も行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0人	14人	行っていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14人	0人	月に1回、外部講師によるバンビの子どもを対象とした専門的な研修を行ったり、犬山市や愛知県の開催する研修会にも該当者は参加している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14人	0人	PDCAを行い適切に計画作成が行われている。 現場での個人画板に実施中の個別支援計画と専門的支援実施計画を公開して、いつでも確認できるように配慮している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	14人	0人	事業所では定期的に加えて随時、フォーマルに準じたアセスメントを行い、日々の行動分析や保護者によるアセスメントを参考に計画に反映させている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14人	0人	保護者からのアセスメントアンケートや日々の関わりの中から課題を抽出して個別支援計画の原案を作成し、保護者との面談、担当職員と支援会議を行って本計画に向け熟慮・検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14人	0人	現場での個人画板に実施中の個別支援計画と専門的支援実施計画を公開して、いつでも確認できるように配慮している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14人	0人	定期的に加え成長を感じた際には、フォーマルに準じたアセスメントを行い、また、日々の支援からインフォーマルなアセスメントも随時行っている。保護者からの提供によりクリニックでの心理検査の結果などをフォーマルなアセスメントとして活用している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14人	0人	・5領域を踏まえて、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」および「地域支援/連携」のための支援目標と具体的な内容を設定して個別支援計画を作成している。 ・保護者や学校の先生などと共有して支援を進められるよう計画書の中に支援内容を記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14人	0人	常勤職員や担当職員により計画立案し実施している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14人	0人	毎月変化させている。	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14人	0人	・基本的には個別化した取り組みが中心になっている。お子さんの社会性に関する育ちを見て、どの規模の集団が適切なのかを判断し計画し実施している。 ・社会性を育む集団での音楽・運動の取り組み、個々の特性に合わせた活動（TEACCHプログラム）を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14人	0人	常勤は朝礼を行い、申し送りノート・企画書等で、時間差で来るパートさんにも周知している。また工程表や生活シナリオでその日の流れを把握できるように配慮している。	パートは必ず打ち合わせが行われているわけではないと思う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14人	0人	帰る時間がまちまちなので、振り返り等を常勤職員が集約して申し送りノートに反映させている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14人	0人	支援経過（サービス提供実施記録）もしくは特記事項を残し経過が見られるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14人	0人	標準は6か月以内でモニタリングを行っている。 必要であれば、より短い期間でも行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	14人	0人	「日常生活充実と自立支援のための活動」「多様な遊びと体験活動」「地域交流の活動」「子どもが主体的に参画できる活動」を意識して支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14人	0人	・何もなく判断することが難しいお子さんには選択肢を与えることで選ぶことができ、意思表示に繋がるように支援している。 ・子どもの特性に応じて工夫されている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14人	0人	参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14人	0人	必要であれば、保護者を通じて医療での評価や取り組みをお聞きして反映させている。保健センター、相談支援員、学校などの関係機関と意見交換を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14人	0人	学校からのお便りの提供やホームページを参考のために閲覧する等を行い、保護者を通じてスケジュールの変更を把握して、送迎が間違いなく行えるように日々調整している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14人	0人	児童発達支援事業所等と情報共有して、お子さんの生育歴などを考慮し支援に繋げている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13人	1人	障害福祉サービス等から求めがあれば、その後の支援に繋がられるように情報を共有を行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14人	0人	児童発達支援センターとの連携は日ごろから行っている。いつでも個別に相談するなど関係性は良好である。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	13人	1人	近隣の他の事業所と長期休暇には連携し、プラネタリウムへの外出の活動を行った。また、犬山市にある他の事業所と合同で行うスポーツ交流会や、ミュージックフェスティバルでは地域のお子さんや南部中学校の生徒さんとの交流ができた。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	14人	0人	参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14人	0人	送迎時や連絡帳、家族面談にて共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14人	0人	それぞれの家族で対応方法が違いため、日々の職員との対話や保護者面談時に家庭の特色に合わせた助言を随時行っている。保護者交流会を実施して、障がいの特性の理解を促したり、公でお伝えできる内容であれば、バンビの取り組みを活かして家庭で行える方法を一緒に考える等の相談を行っている。 ・年に一度保護者会を実施し、日頃の支援についてはバンビでの好事例を伝えたり自宅で取り組めることはツールなども提供し般化につなげている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14人	0人	重要事項説明書の変更点や利用者負担などの変更は必ず文書で発信して同意を得ている。支援プログラムは家族面談時や日々の保護者との対話で説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14人	0人	モニタリング時の家族面談を行う際には事前にアンケートを実施して、学校での課題や6ヶ月間の成果、事業所に対する今後の要望をまとめて頂き、踏まえて面談を行い個別支援計画に盛り込み子どもと相談しながらポジティブに取り組めるよう配慮している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14人	0人	説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14人	0人	随時行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14人	0人	11月16日に保護者交流会を開催した。きょうだいで交流する機会はスポーツ交流会やミュージックフェスティバルへの参加を促している。	今後、きょうだいへの取り組みをより強化できるように計画に。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14人	0人	苦情の申し立てがあった場合には迅速に対応し事実確認を行って、事業所の落ち度に対しては謝罪し改善に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14人	0人	年に2回お便りを発行している。今年からInstagramで活動内容を発信している。行事予定は利用希望のカレンダーに記載している。学校も含めて、連絡帳で日々の状況の発信が行えるように保護者欄、教育機関欄を設けて情報共有している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14人	0人	配布物は職員同士でダブルチェックをしたりしながら配慮している。	チェックを行なってはいるものの、間違えて文書を入れてしまうことがある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14人	0人	情報伝達は文書や文字にして発信することを基本として、後日確認できるように配慮している。また、日程などは確認の連絡を入れる場合もある。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11人	3人	夏休みにはセラピードックを招待したり、警察の方にお越し頂き交通安全講習や防犯講習を行ってもらった。デイサービスの高齢者との交流を行い地域住民との交流も図っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14人	0人	保護者には、感染症の対応マニュアル、緊急時対応マニュアルを配布して周知し、職員には、日々の研修や訓練で実際に経験したり、他者の経験したインシデントや事故を共有して再発防止に取り組んでいる。 ・定期的実施されていると思う。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14人	0人	・業務継続計画は策定し、非常災害のための訓練は、月に1回、避難訓練や準じた取り組みを行っている。 ・長期休暇には消防署と連携を図った訓練を実施している。 ・シェイクアウト訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	14人	0人	服薬を行っているお子さんは薬事説明書の提供を求め、かかりつけ医、既往症などを契約時に確認し、アセスメントアンケートや家族面談の際にも再確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14人	0人	食物アレルギーについて保護者を通じて状況をアンケートにて情報収集し、対応方法や範囲について職員に周知している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14人	0人	安全計画は作成し、送迎車での追い置き防止についてはブザーの設置やその都度チェックを行っている。また、避難訓練や防犯訓練、感染症、BCPの委員会の実施や研修、訓練、虐待や身体拘束の委員会の実施や研修は実施済み。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14人	0人	警察による交通安全や防犯講話などの実施や、避難訓練などを行った際には随時報告を行っている。置き置き防止ブザーは該当車に設置して、窓ガラスに設置済みのステッカーを貼って示している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14人	0人	・事故やヒヤリハットの事例について、ミーティングで周知して、他者の経験した危険に繋がるような事象を共有し再発防止に努めている。 ・月に一度ミーティングで共有している。 ・同じことが起こらないよう努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14人	0人	虐待委員会の運営や担当者を選定し、研修の機会を設け実施している。職員一人一人にチェックリストを配布し、支援の振り返りを行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	14人	0人	身体拘束を行う場合には組織的に決定し、保護者に同意を得て、実施した日にち、時間帯、その態様など必要な記録を行っている。必要か否かの再検討も行っている。		